

わが町別府再発見

個性のあるまちづくり

河村 建一

私たちの町別府は、江戸、明治、大正、昭和、平成と



11月別府市内で開いたパネル写真展「わが町別府再発見」

長い年月にわたって人々の暮らしとともに息づいてきた。海と山々に囲まれたすばらしい自然環境と景観、そして温泉に恵まれた別府も社会の進展にともない開発が進み、この三、四拾年で大きく変貌してしまった。今こそ別府の風土

や歴史を生かした個性的なまちづくりを進める必要があるのではなかろうか。平成八年の十一月六日から十一月二十二日まで大分みらい信用金庫南支店ロビーで「わが町別府再発見」パネル写真展を開催させてもらった。これは昭和五十八年の別府の町を分析した貴重な資料であり、今一度わが町の個性を再認識しなければならなさと感じたからである。つまりビーコンプラザの始動、立命館アジア太平洋大学の誘致問題、九州横断自動車道の開通、国際化の到来など新しい別府へと羽ばたき始めた今、二十一世紀における「別府の役割」をはっきりと認識してほしいという思いがあるからだ。私たちの「これからの別府を考える市民グループ」で昭和五十八年十月から六ヶ月間にわたって会員それぞれが別府の街を散策し、町並みや景観をカメラに収めてきた。みんなの努力で約

千七百枚の写真が撮れ、それを六百五拾枚ほどにまとめ地域別に十九枚のパネル写真に編集したものである。年月の過ぎるのは早いものであれから十五年、またまた別府が変貌しているのをつよく感じている。

昭和五十八年当時の別府の街

今から十五年前の別府、その頃の町並みや景観についてパネル写真を掲載できないのが残念だが、当時の調査記録を示して参考としてみよう。

(奥別府地域)

阿蘇国立公園に属し豊かな自然景観がそのままの形で残る地域として貴重な存在。家族で自然に親しめる志高、城島、美しく広々とした高原の十文字原、松塚。これらは市民の貴重な財産としてこのまま残しておきたいものである。

(自衛隊付近、西別府団地地区)

西別府団地（通称文化村）の桜の街路樹は、大正末期から土地開発分譲者と地元の人々が風致を大切に考えた



昭和62年、自費で製作し、イベント等で配布、PRに努めている別府八湯の絵はがき

湯の花小屋、地獄地帯、貸間、旅館街、共同浴場など昔の湯治場の面影がそのまま残っている。
(鉄輪温泉)
鉄輪は坂のまち、いでゆ坂を中心に古い石畳、木造の貸間旅館、芝居小屋などが

並び、共同浴場は入湯客

と地域住民のコミュニティの場。タオルを肩にそぞろ歩きを楽しみながら人情にふれ、安らかな心があふれてくる。

(亀川バイパス付近・小坂地区)

亀川バイパスの全面開通に伴う公設地方卸売市場、中央浄化センターの開設。さらに古市地区埋め立てによる

名残り。先人の環境重視の跡が偲ばれる。また、自衛隊付近の植栽や高速自動車道による自然環境の変貌に留意してみたい。

一、別府八湯の個性を生かそう

(堀田地区)

別府八湯のひとつで昔の湯治場。薬師羅漢寺の石仏たちや石畳道、太宰府官道、石垣原合戦の大夫氏陣屋跡など、繁栄の名残に往時が偲ばれる。また、この地区を高速自動車道が南北に貫通する予定。高い土塁で展望が妨げられてしまうことになる。

(観海寺温泉)

この地区は別府の高台に位置し、昔から別府八湯のひとつとして広く知られ展望に優れ緑も豊富である。最近では近代的なホテルが建ち並び、昔のひなびた情緒も少なくなり新しい観光地として変貌しつつある。

(明礬温泉・鉄輪地区)

豊富な緑に囲まれたこの地区は別府八湯の中でも最も湧出量が多く、まちのいたる所から湯煙りが立ち昇り、

準工業団地の建設などこの地区の様子も一変した。さらに小坂地区の住宅団地開発によって、将来一層の変化が予想される。

(観光港周辺・石垣地区①)

区画整理によって、田畑や畔道の昔日の面影はどこにも見当たらない。マンションが林立し公園も整備された。海岸沿いは観光港が整備されたものの、他の海岸線はテトラポットで埋め尽され昔の砂浜がなつかしく偲ばれる

(観光港周辺・石垣地区②)

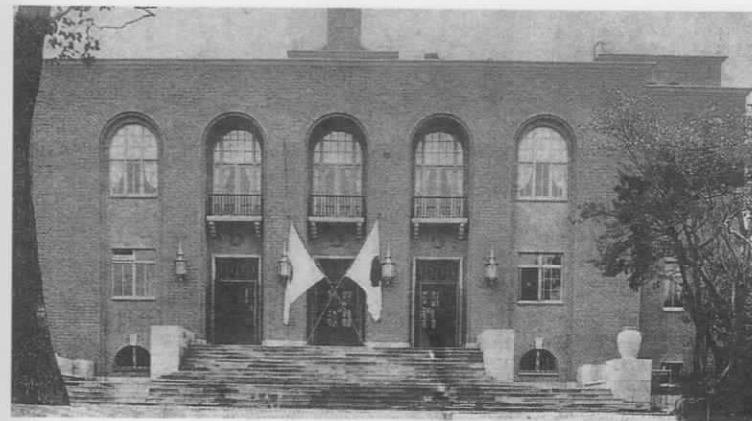
この地区の産業は区画整理が施行されるまでは農業が中心であったが、現在は市内外より様々な業種が進出している。自動車販売会社の支店やカー用品店をはじめ、遊技施設、飲食業なども増えている。また、市内各企業の本店移転も進捗しつつある。

(上人・春木川・亀川地区)

やまなみ道路以北のこの地区は、街区整備より先に建物立地が進んで今後に問題が残るそう。海岸整備は亀川ゾーンの埋め立てを含め、公園、道路、諸施設などの整備が着々と進んでいる。

(野口・青山・南石垣地区)

旧市街地と新興地域との中間に位置し、中学校・高等



昭和3年に完成した当時の別府市公会堂（現在は別府市中央公民館）

学校など多数の教育施設や別府公園、市民グラウンドなど、別府の文教の中心的な地区であり、緑や石垣も数多く閑静な住宅地でもある。



二、残したい建物、元別府市公会堂、元麻生別荘、元中山別荘

(驛西側周辺・山ノ手地区)

この地区は繁華街に近いわりには閑静で緑の豊富さが目につき、特に石垣や生け垣が多く残っており落ち着きがある。中央公民館（元別府市公会堂）や田ノ湯郵便局跡をはじめとして、市民に親しまれた建物が多く残っている地域である。別荘建築を生かした喫茶「信濃屋」を再活用 of 参考としてほしい。

(鶴見・荘園・実相寺地区)

別府市のほぼ中央部に位置するこの地域は自然と緑に恵まれ、文教、医療、公園、河川、住宅地と生活環境にマッチしたところ。一部では自然環境が壊されており、特に実相寺地域は市民一人ひとりの良識と監視が必要な地域である。

(朝見・西校区地域)

この地域は山際に近く、神社仏閣が点在し市民の参拝の機会が多く、自然とふれ合いを持つ石垣、垣根のある閑静な町並みが残っている。また古くから伝統的竹工芸

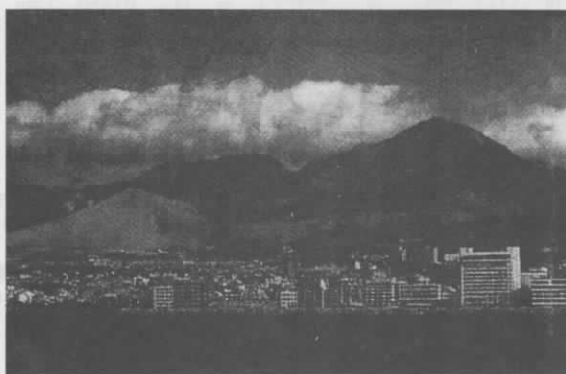
などの息づくまちでもあり、調和のとれた、たたずまいが残っている。

三、すでに壊された浜脇高等温泉、今、人気の竹瓦温泉

流川より南のこの地域は古いまちではあるが住みよさがあり、人々が長い年月積み重ねた暮らしの重みと大切さがある。将来このまちがその趣を失い老いさらばえていくのかどうか、市庁舎移転後の行政と住民の姿勢にかかっている。今はなき浜脇高等温泉、まちのシンボルとして再活用したかった。残念でたまらない。

(駅前・北浜・海岸地区)

この地区は商業、観光の中心であり、海岸線はペデストリアンデッキ、的が浜人工海浜と部分的な開発が進行している。また「商業近代化計画」に基づく大規模再開発も提唱されているが、観光都市としてふさわしいより総合的な整備が望まれる。木造建築の竹瓦温泉が静かに人気を高めている。



四、海と山々に囲まれた一大自然景観の別府
(海と山と空の見える街)
立体的な素晴らしい景観と温泉。緑豊かな地形は別府の資源であり大へんな可能性を秘めていると思う。いっどこから眺めても海と山とまち、そして空との調和が美しく印象的である。この個性を生かしたまちづくりこそ、大切である。

(山々を見上げる景観)

私たちの別府は、鶴見岳、高崎山、扇山など山容の美しさが印象的な街である。近年、宅地開発が急速に進み、山のすそ野まで開発されてきた。扇山など山々の雄姿は永遠であり、

その景観は市民の財産として大切にしたいものである。
また幾筋もあがる「湯けむり」は壮観である。

(別府湾を見おろす景観)

街周辺と郊外の宅地化、車社会の発展は別府を坂の街へと変貌させた。海の見えるすばらしい景観は市民に大きな安らぎを与えてくれる。緑豊かな自然環境に加え、どこから見ても別府湾が眼下にパノラマで広がる。この景観は別府の貴重な資源と言える。

以上昭和五十八年当時の調査記録のまま、再発見した別府のまちの個性を記してみた。個性ある地域づくりは私のライフワークである。今、実行している旧別府温泉「竹瓦かいわい路地裏散歩」も思いつきではなく、調査に基づいてプロデュースしたものである。別府の歴史と文化を研究し、「将来の別府の街がどうかあるべきか」を考え、少しでもわがふるさと別府が個性的な魅力ある街になるように、みんなで力を合わせていきたいものである。

(別府末広郵便局長)

別府だけしかない個性を生かすための三つの提言

- ① 海と山々に囲まれた別府の一大自然景観を守る。
 - ・ 海と山、湯けむりの見える景観を守る。
 - ・ 緑豊かな自然景観を育てる。
 - ・ 九州横断道路より山側の開発は自然に逆らわない
 - ・ 町並みや文化遺産を活用する。
- ② 温泉行政の見直し
 - ・ 別府八湯をクロージアアップし温泉の集中管理のあり方を見なおす。
- ③ 歴史的建造物の再生、活用
 - ・ 元別府市公会堂(現別府市中央公民館)の復元と元麻生別荘、元中山別荘を県または市が買いとり、国際迎賓館(ピーコンプラザの補完施設)として再活用する。

・ 十一種類の泉質のうち、十種類が別府にある。種類の多さは世界一。この個性を生かすため別府の名湯を二十年計画で掘り起こし活用する。

